

平成 28 年度全国学力・学習状況調査の結果について(お知らせ)

平成 28 年度全国学力・学習状況調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることなどに留意して分析を進め、このたび、名寄市小・中学校の児童生徒の学力や学習状況の傾向をまとめることができました。

つきましては、明らかになった課題を克服し、さらに児童生徒の学習改善や学習意欲の向上を図るために、学力や学習状況の傾向及び指導の改善策などについてお知らせいたしますので、皆様のご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

1 小学校の教科に関する調査結果の概要について

※ 「全国」とは全国の平均正答率のことです。

□・漢数字・()・記号は設問番号を示しており、調査問題は国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

また、改善策の例については、国立教育政策研究所の解説資料から一部を抜粋して掲載しています。

国語 A ～ 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

<全国と比べて成果が見られた設問>

- 1 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりすることかできるかどうかをみる。
〔設問の概要〕
読む問題—貯金、省く
書く問題—たね、したい、そうだん
- 6 登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉える。
- 7 毛筆で書く学習において、用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めることができるかどうかを捉える。

<全国と比べて課題が見られた設問>

- 3 書き手の表現の仕方をよりよくするために助言することができるかどうかをみる。
〔設問の概要〕
学年集会について知らせる文章を書く場面において、学年集会のお知らせの中でも特に「ルールの説明」の部分について、どのように書き直すと読み手にとって分かりやすい表現になるかということを理解する。
- 4 目的や意図に応じて、書く事柄を整理することができるかどうかをみる。
〔設問の概要〕
委員会に入る 5 年生に向けて、各委員会を紹介するパンフレットを作る場面において、目的や意図に応じて必要な事柄を判断する。
- 8 平仮名で表記されたものをローマ字で書くことができるかどうかをみる。
〔設問の概要〕
りんご、あさって

【改善策の例】

- 表現をよりよくするためには、書いたものを読み合い、助言し合うことが必要である。その際、次のような視点をもって助言することができるように指導することが大切である。
(助言する際の視点の例)
 - ・書き手の考えが明確に表れているか
 - ・段落相互の関係などが明確であるか
 - ・表現の曖昧さはないか
 - ・読み手が理解しやすいように更に改善できる部分はないか
- ローマ字の指導については、情報機器の活用や他の学習活動等との関連を考慮し、以前は第4学年であったものを現行学習指導要領においては第3学年の指導事項とし、ローマ字を使った読み書きがより早い段階においてできるようにしている。当該学年での学習にとどまらず、他教科等でコンピュータを使った学習と関連付けるなどして、繰り返し読んだり書いたりする機会を増やす必要がある。

国語 B ～ 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

<全国と比べて成果が見られた設問>

- 2二 目的や意図に応じて、グラフや表を基に、自分の考えを書くことができるかどうかをみる。
〔設問の概要〕
学級で取り組む「早寝早起き朝ごはん」運動の結果をまとめ、活動報告文を書く場面において、グラフや表を基に自分の考えを(40文字以上60文字以内)書く。
- 3一 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むことができるかどうかをみる。
〔設問の概要〕
将来なりたい職業について調べ、紹介し合うために、複数の本や文章などを選び、比べて読む場面において、目的に応じて適切な本や文章などを選び、それらと関係付けて読む。

<全国と比べて課題が見られた設問>

- 2一 グラフを基に、分かったことを的確に書くことができるかどうかをみる。
〔設問の概要〕
「早寝早起き朝ごはん」運動の活動の成果を示すために、図から読み取ったことを書く。
- 2三 活動報告文において、課題を取り上げた効果を捉えることができるかどうかをみる。
〔設問の概要〕
活動報告文において、課題を取り上げたことによる効果を捉える場面において、活動報告文の目的を踏まえ、課題を記述することの効果を理解する。

【改善策の例】

- 図表やグラフなどを読み、分かったことを的確に書くには、情報を正しく読み取り、必要な情報について適切な言葉を用いて記述することが重要である。そのためには、社会科や算数科等で学習した図表やグラフの読み方を確認し、読み取ったことを的確に表現することができるように指導していくことが大切である。
- 活動報告文では、報告する相手や目的に応じて、文章全体の内容や構成を工夫することが重要である。そのためには、目的や意図を踏まえ、自分の考え及び相手の理解が明確になるように、自分が伝えたい内容と構成の効果を考えることができるように指導することが大切である。

算数 A ～ 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

<全国と比べて成果が見られた設問>

- 2(2) 末尾のそろっていない小数の加法の計算をすることができるかどうかをみる。
〔設問の概要〕
4. 65 + 0. 3

- 4 単位量あたりの大きさの求め方を理解しているかどうかをみる。

<全国と比べて課題が見られた設問>

- 3 数の大小関係を理解しているかどうかをみる。
〔設問の概要〕
7. 1、7、7. 01の3つの数の大小

- 9(2) 1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解しているかどうかをみる。

【改善策の例】

- 小数は、整数と同じように十進位取り記数法によって表されているので、小数の大小比較も整数と同じ考え方でできることを理解することが大切である。指導に当たっては、小数の場合についても、数の大きさを相対的に捉えることができるようにすることが大切である。
- 日常生活においては、増量や値引きなど様々な場面で割合が用いられている。その意味を理解するためには、基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えることが大切である。指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、定員が基準量であることを捉える場面を設けることが考えられる。その上で、乗っている人数は定員よりも定員の20%分多いことから、乗っている人数の割合は120%であると捉えることができるようにすることが大切である。

算数 B ～ 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

<全国と比べて成果が見られた設問>

- 1(1) 問題場面に示された条件を基にほかの正方形について検討し、同じきまりが成り立つかを調べることができるかどうかをみる。
〔設問の概要〕
正方形の縦の長さを1cm短くし、横の長さを1cm長くした場合に見られる面積にかかわるきまりを考察する場合や、正方形の縦の長さを2cm短くし、横の長さを2cm長くした場合において、面積がどう変わるかを考察する。

- 4(3) グラフから貸出冊数を読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を、言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。
〔設問の概要〕
読書活動を推進する目的で本の貸出冊数について調べ、その様子を表したグラフについて考察する場面において、示された解釈が正しくないことの理由を説明する。

- 5(2) 算数の問題場面で見いだしたことを、図形の構成要素に着目して、論理的に考察することができるかどうかをみる。
〔設問の概要〕
図形を構成する角の大きさを基に、示された四角形を並べてできる形を判断することができるかどうかをみる。

<全国と比べて課題が見られた設問>

- 1 (2) 面積が 1 cm^2 小さくなることの説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適応して、その説明を言葉と式を用いて記述できるかどうかをみる。〔設問の概要：1 (1)に同じ〕
- 2 日常生活の事象を数理的にとらえ、場面を適切な式に表したり、式の意味を具体的な事象と関連付けたりすることで問題を解決することができるかどうかをみる。
〔設問の概要〕
(1) 示された情報を基に、ハードルの数とインターバルの数の関係を把握して式に表し、4台目のハードルの位置を求めることができるかどうかをみる。
(2) 示された式に数値を当てはめて、目標のタイムを求めることができるかをみる。
- 3 日常生活の問題解決のために、乗法や除法の式、図形の性質を用いて判断することができるかをみる。
〔設問の概要〕
日常生活においてもものを作る場面では、材料が足りているかどうかを判断したり、実際に作るものの図をかいたりするときなどに、算数で学習したことを活用することが必要になる。本問題では、学習発表会のためにメダルを作る場面を設定した。

【改善策の例】

- 日常生活には様々な式が用いられている。それらの式について、演算の意味や数値の意味を考えることは重要な意味を持つ。指導に当たっては、立式するだけでなく、友達が考えた式や示された式について、その式の数値はどこから導き出されたものであるか、その数値に対してどのような演算を行っているのかを考える場面を適宜設けることが大切である。
- 日常生活の問題の解決において、必要な量と今ある量の大小を判断する場面がある。その際、乗法や除法の式を用いて数量を求めることや、乗法や除法の意味に基づいて的確に判断していくことが必要となる。指導に当たっては、例えば、一つの場面を表した幾つかの式を取り上げ、その式の意味について説明する活動が考えられる。

2 中学校の教科に関する調査結果の概要について

※ 「全国」とは全国の平均正答率のことです。

□・漢数字・()・記号は設問番号を示しており、調査問題は国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

また、改善策の例については、国立教育政策研究所の解説資料から一部を抜粋して掲載しています。

国語 A ～ 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

<全国と比べて成果が見られた設問>

- 4一 文章を読み返し、文の使い方などに注意して書くことができる。
〔設問の概要〕
北極と南極について調べたことをQ&Aの形式にまとめるという場面において、書いた文章を読み返し、内容を整理して書き直したり、質問に対する答えとその根拠が明確になるように文のつながりを考えて書く。
- 5一 相手や場に応じた言葉遣いなどに気を付けて話すことができるかをみる。
〔設問の概要〕
職場体験の訪問先に電話をするためのリハーサルを行っている場面において、電話を受けた相手のことを考え、言葉遣いや内容に気を付けて適切に話す。
- 9二 文脈に即して漢字を正しく読むことができるかどうかをみる。
〔設問の概要〕
報われた、敬う
- 9四 漢和辞書を活用し、漢字が表している意味を正しく捉えることができるかどうかをみる。
〔設問の概要〕
漢字には幾つかの意味があることを踏まえ、熟語におけるそれぞれの漢字の意味を正しく捉える。

<全国と比べて課題が見られた設問>

- 1一 聞き手の立場を想定し、話の中心的な部分と付加的な部分との関係に注意して話すことができるかどうかをみる。
- 1二 目的に応じて資料を効果的に活用して話すことができるかどうかをみる。
〔設問の概要〕
おすすめの本を紹介するスピーチの場面において、自分が伝えたいことについて、聞き手の立場を具体的に想定したり、資料を意図的に提示したりして話す。
- 8二 奥付を使って本についての情報を得ることができるかどうかをみる。
〔設問の概要〕
資料集の奥付の特徴や役割について理解したり、その資料集を活用するときの留意点について、奥付を使って考える。

【改善策の例】

- 紹介や提案などのスピーチをする際には、自分の伝えたい内容を明確にした上で、聞き手にも様々な立場や考えがあることを踏まえて話す必要がある。指導に当たっては、聞き手の興味や関心について事前に調べたり、スピーチの後に聞き手の反応を振り返ったりする学習活動が考えられる。
- 本から必要な情報を得る際には、「目次」、「索引」、「奥付」、「まえがき」などの特徴や役割を理解し、目的に応じて活用することが大切である。例えば、奥付には、書名、著者、発行年月日、発行所などの情報が示されている。

本の一部を自分の文章に引用して記述する学習の際には、奥付に着目して引用部分の出典を明らかにする必要がある。その際、実際に奥付のページを開いてみるなど、記載されている場所や内容を確認しながら指導することが大切である。

国語 B ～ 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

<全国と比べて成果が見られた設問>

- ①一 文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、要旨を捉えることができるかどうかをみる。
〔設問の概要〕
博物館のちらしを読んで、そこから「暮らしの中の伝統文化展」を開催するねらいなどを読み取る。
- ②三 課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えることができるかをみる。
〔設問の概要〕
自ら設定した課題を解決するために、学校図書館を活用して必要な本をどのように探すのかを考える。

<全国と比べて課題が見られた設問>

- ①三 文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くことができるかどうかをみる。
〔設問の概要〕
博物館のちらしの表現の工夫とその効果について説明する。
- ②一 文章の構成を捉えることができるかどうかをみる。
〔設問の概要〕
「宇宙エレベーター」について紹介する雑誌の記事の構成や内容を理解する。
- ③三 本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くことができるかをみる。
〔設問の概要〕
文章の展開に即して内容を理解するとともに、目的に応じて資料を参考にしながら読み、分かったことについて根拠を明確にして書く。

【改善策の例】

- 文章の構成や展開、表現の仕方について考えることは、様々な文章を自分の目的に沿って活用することや、自分で文章を書く際に表現の工夫について考えることにもつながる。例えば、ちらしやポスター、パンフレットなどの構成や展開、表現の仕方に着目し、そのような表現をした書き手の目的や意図を考えたり、その効果について考えたりする学習活動が効果的である。その際、自分の考えを支える根拠となる部分を挙げるように指導することが重要である。
- 説明的な文章を読む際には、全体的な構成を捉えて、文章の内容を理解することが大切である。特に、項目が立てられた文章では、見出しに着目して読むことで大まかな内容が把握できることに気付くように指導する必要がある。
- 文学的な文章を読む際には、必要に応じて百科事典や図鑑などの資料を参考にし、そこから具体的にイメージした場面の様子などについて交流することも考えられる。その際、文章のどの部分に着目し、どのような事柄を基にして内容を理解したり想像を広げたりしたのかなど、根拠を明確にして説明し合うように指導する。

数学 A ～ 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

<全国と比べて成果が見られた設問>

- 9(2) 比例の式について、Xの値の増加に伴うYの増加量を求めることができるかをみる。
- 12(1) 資料を整理した表から最頻値を読み取ることができるかどうかをみる。
- 12(2) 測定値が与えられた場面において、近似値と誤差の意味を理解しているかどうかをみる。

<全国と比べて課題が見られた設問>

- 2(2) 整式の加法と減法の計算ができるかどうかをみる。
〔設問の概要〕
 $(2X + 5Y) + 3(X - 2Y)$ を計算する。
- 2(4) 具体的な場面で数量の関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形できるかどうかをみる。
〔設問の概要〕
 $S = ah$ をhについて解く。
- 9(3) 具体的な事象における2つの数量の関係が、反比例の関係になることを理解しているかどうかをみる。

【改善策の例】

- 文字式の計算を確実にできるようにするために、計算法則を確認するだけでなく、式の意味を読み取る活動を取り入れることが考えられる。授業を行う際には、誤答例を取り上げ、分配法則を確認した上で、正しい解法に修正する活動を取り入れることが考えられる。
- 具体的な事象における2つの数量の関係を式に表し、反比例の関係を見いだすことができるようにするために、具体的な事象の中から2つの数量を取り出し、それらの変化や対応の様子を調べる活動を取り入れることが考えられる。

数学 B ～ 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

<全国と比べて成果が見られた設問>

- 2(1) 与えられた条件を基に、表から2つの数量の変化や対応の特徴を捉え、Xの値に対応するYの値を求めることができるかをみる。
〔設問の概要〕
YはXの一次関数であるとき、 $X = 4$ のときのYの値を求める。
- 3(2) グラフの傾きを事象に即して解釈することができるかどうかをみる。
〔設問の概要〕
車の使用年数と総費用の関係を表すグラフの傾きを、事象に即して解釈する。
- 5(2) 与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現することができるかどうかをみる。
〔設問の概要〕
ボウリング場の貸し出し用の靴を買い替える場面において、「貸し出された靴のサイズの平均値である24.5cmの靴を最も多く買う」という考えが適切でないことを説明する。

＜全国と比べて課題が見られた設問＞

- ①(2) 与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、数量の関係を数学的に表現することができるかどうかをみる。
〔設問の概要〕
ドッチボール大会の計画を立てる場面において、先生チームとの試合を新たに入れるときに、1試合の時間が何分になるかを求めるための方程式をつくる。
- ④(2) 付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる。
〔設問の概要〕
図形の証明について、発展的に考え、新たに見いだした事柄を説明する。
- ⑥(2) 与えられた式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。
〔設問の概要〕
数当てゲームについて文字式を用いて考察する。

【改善策の例】

- 数学的な結果を事象に即して解釈できるようにするために、方程式の解などの数学的な結果を、具体的な場面に即して意味付ける機会を設けることが考えられる。
- 付加した条件の下で、見いだした事柄を数学的に表現できるようにするために、新たに条件を加えた際に、見いだした事柄の前提に当たる条件と、それによって説明される結論を明確にして表現する活動を取り入れることが考えられる。
- 文字を用いて処理した式を読み取り、問題解決の方法を説明することができるようにするために、処理の手順を数学的に考察する場面を設定することが考えられる。

3 小学校の児童質問紙調査、中学校の生徒質問紙調査の結果の概要について

※ 「全国」とは全国の児童生徒が回答した割合のことです。
 ()は質問番号を示しており、質問事項は国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

◆ 小学校の児童質問紙調査の結果の概要について

＜全国と比べて望ましい傾向を示した項目＞

項目	平成 28 年度の傾向
(14) 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか。	「1時間以上勉強する」という割合が高い。
(24) 家で学校の授業の復習をしていますか。	「している」という割合が高い。
(29) あなたの学級では、学級会などの時間に友達同士で話し合っって学級のきまりを決めていると思いますか。	「当てはまる」という割合が高い。
(42) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	「思う」という割合が高い
(49) 学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。	「当てはまる」という割合が高い。
(53) 授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか。	「思う」という割合が高い
(54) 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていましたか。	「当てはまる」という割合が高い。
(56) 道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか。	「当てはまる」という割合が高い。
(60) 授業の中でわからないことがあった時にどのようにすることが多いですか。	「先生や友達などに尋ねて解決しようとする児童」の割合が高い。
(64) 読書は好きですか。	「当てはまる」という割合が高い

＜全国と比べて努力を要する傾向を示した項目＞

項目	平成 28 年度の傾向
(4) ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。	「どちらかと言えば当てはまる」を含めると全国平均程度だが、「当てはまる」という割合が低い。
(12) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしていますか。	改善傾向にあるが、「2時間以上」という割合が高い。
(26) 学校に行くのは楽しいと思いますか。	「どちらかと言えば当てはまる」を含めると全国平均程度だが、「当てはまる」という割合が低い。
(38) テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか(携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む)。	「当てはまる」という割合が低い。

◆ 中学校の生徒質問紙調査の結果の概要について

<全国と比べて望ましい傾向を示した項目>

項 目	平成 28 年度の傾向
(4) ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。	「当てはまる」という割合が高い。
(6) 自分には、よいところがあると思いますか。	「思う」という割合が高い。
(29) あなたの学級では、学級会などの時間に友達同士で話し合っただけで学級のきまりなどを決めていていると思いますか。	「当てはまる」という割合が高い。
(31) 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。	「当てはまる」という割合が高い。
(33) 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか。	「当てはまる」という割合が高い。
(42) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	「思う」という割合が高い。
(53) 授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか。	「当てはまる」という割合が高い。
(54) 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。	「当てはまる」という割合が高い。
(55) 授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思いますか。	「当てはまる」という割合が高い。
(60) 授業の中でわからないことがあった時にどのようにすることが多いですか。	「先生や友達などに尋ねて解決しようとする生徒」の割合が高い。
(64) 読書は好きですか。	「当てはまる」という割合が高い。

<全国と比べて努力を要する傾向を示した項目>

項 目	平成 28 年度の傾向
(9) 将来の夢や目標を持っていますか。	「当てはまる」という割合が低い。
(12) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)。	「2時間以上」という割合が高い。
(13) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしていますか。	改善されつつあるが、「2時間以上」という割合が高い。
(14) 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。	「1時間以上」という割合が低い。
(49) 授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。	「当てはまる」という割合が低い。
(75) 数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。	「当てはまる」という割合が低い。
(78) 数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。	「当てはまる」という割合が低い。

4 学力向上の取組について

今年度の全国学力・学習状況調査の結果から、本市の児童生徒においては、各教科で基礎的・基本的な知識や技能の定着が図られている状況が見られるものの、①根拠を明らかにして考える、②物事を関連付けて考える、そして、③考えたことを、条件に応じて、まとめ・表す、といった力を身に付けさせることや、家庭での学習習慣の確立を図ることなどが継続的な課題となっています。

このような成果と課題を踏まえ、名寄市教育委員会では、授業改善と望ましい生活のリズムの定着を「車の両輪」と位置付け、名寄市教育改善プロジェクト委員会を中心として市内の小・中学校が一体となった総合的な学力向上の取組をさらに推進してまいります。

【主な重点】

(1) 授業改善

思考力、判断力、表現力等を育むために、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、発表や討議、ノート記述、レポート作成などの言語活動を次の視点から充実を図ります。

- 授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を示す
- 授業の最後に学習したことを振り返る活動を行う
- 児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような指導に努める
- 児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進める

(2) 指導方法・指導体制の改善

学習内容を確実に身に付けさせるために、各学年ごとの到達目標を設定し、個別指導やグループ別指導、繰り返し指導、学習内容の習熟の程度に応じた指導など指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図ります。

(3) 学習規律の徹底

授業を効率的に進め、児童生徒の自ら学ぶ態度を養うため、すべての小・中学校で全学級における一貫した学習規律の確立を図ります。

(4) 学習習慣の確立

家庭学習の充実を図ります。(例：全国学力・学習状況調査の結果及び改善策について児童生徒・保護者への丁寧な説明、テレビゲームなどをする時間の縮減及び学年に応じた家庭学習の時間の確保、予習－授業－復習のサイクルの確立等)

(5) 学びに向かう集団づくり

自らを律する心を育てる生徒指導と学級が児童生徒の心の居場所となる学級経営に努めます。